

「求職者の意識行動および職業構造の変化に伴う
労働力需給調節のあり方」に関する調査研究

近年における労働力需要構造は大きく変化しつつある。それが労働市場にどのような変化をもたらしているのかを、求職者の職業選択に関する意識と求職活動及び企業の求人活動、雇用管理の実態、さらには就職あっ旋機関・媒体の

機能とシステムの実態等を調査することによって明らかにし、今後の労働力需給調節のあり方を研究したものである。

<研究委員>

- ・氏家麻夫 日本労働協会総務部長
- ・岡本英雄 上智大学文学部助教授
- ・小野 功 東京商工会議所労働部長
- ・鈴木春男 千葉大学文学部助教授

目次

- I部 調査研究計画について
- II部 調査研究結果の要約
- III部 各論
 - 第1章 労働市場の構造変化と労働力需給調節システム
 - 第2章 企業の従業員募集・採用活動
 - 第3章 中途採用者と長期パートタイマーの労働市場
 - 第4章 公共職業安定所求職者の意識と行動
 - 第5章 東京学生職業センター来所者および専門学校在学生の就職に関する意識と行動
 - 第6章 新聞・求人誌における求人広告
 - 第7章 労働者派遣事業
 - 第8章 民営有料職業紹介事業

付・調査票